

令和2年 2月17日
生活協同組合 コープぎふ
参与 佐藤 圭三
※岐阜市に事業所を有する法人です。

令和2年度岐阜市食品衛生監視指導計画（案）への意見

平素から「食の安全」のためにご努力いただき心から感謝申し上げます。私ども生活協同組合コープぎふも「食の安全」を目指してさまざまな取り組みを行っておりますが、それも行政の日々の努力があってこそ実効性のあるものになります。今後ともよろしく願います。

さて、令和2年度岐阜市食品衛生監視指導計画（案）が示されましたので、以下のように意見を申し述べます。よろしくお取り計らい願います。

1. P5 （2）営業許可以外の食品取扱い施設の監視指導

「新たな制度の」食品の生産から流通、・・・というように「新たな制度の」という表現が追加されました。どのような意味と理由がありますか。

4. P6（1）消費者等に対する啓発

昨年までは、ノロウイルスや病原大腸菌、カンピロバクター等の具体的な記述がありましたが、今年度の案では非常に簡潔な表現になっています。変更の理由は何でしょうか。

5. P7 ①HACCAP に沿った衛生管理導入の指導・助言

今回の計画では期限が「令和3年6月1日までに」と明記されました。昨年の意見で「中小規模の事業者にとっては大きな負担になるので丁寧な対応をお願いしたい」と出させていただき、「食品等事業者各団体が作成する手引書を踏まえた丁寧な対応をしていきます。」と回答いただきました。この支援の進捗状況はいかがでしょうか。中小業者でもスムーズに導入がすすんでいるのでしょうか。

6. P8 ②営業許可施設に対する監視指導

昨年まで記述のありました表2「レベル別監視目標」が削除されています。削除した理由は何でしょうか。

7. P9 表1 営業許可施設の危害度分類

昨年までは「ホテル・旅館で1回50食以上調理する施設」はレベル1でしたが、今年度の案ではレベル2になっています。理由は何でしょうか。

8. P10 （2）重点監視事項

②ノロウイルス対策、③アニサキス対策が具体的な監視事項として追加されました。消費者として監視事項が明確になるのはありがたい事です。一方、「野生鳥獣肉（ジビエ）」に関する指導がなくなりました。豚コレラが発生し、いのししの捕獲ができなくなったため

でしょうか。しかし、鹿等のジビエは流通していますが重点監視の必要はないということでしょうか。

9. P12 表4 食品の検査検体数

多くの分類で目標検体数が、平成 31 年度計画と比較すると微妙に減っています。同様に、P14 の④食品の放射性物質の検査も、今年の 82 検体から 63 検体に減少しています。昨年も一昨年と比較すると減少していましたので意見を出すと、「HACCP の制度化により、各工程の確実な実施確認に重点が置かれ、最終製品の試験検査にのみ注目せず、事業者の自主検査・製造過程でのチェック等への監視指導を重点的に行なっていきます。」と回答いただきました。それは理解できるのですが、このように毎年目標検体数が少しずつ減少していくのは少々不安があります。「事業者の自主検査・製造過程でのチェック等への監視指導」は、消費者にはどのように報告されるのでしょうか。

10. P15 3 計画の実施状況等の公表及びリスクコミュニケーションの実施

計画の内容は昨年と変化がありません。もう少しリスクコミュニケーションの強化を図っていただけないでしょうか。

11. 避難所の炊き出し等の衛生監視について

計画の中にはありませんが、昨今大きな自然災害が多発しています。被災地では避難所が開設され、炊き出し等が実施され被災者に提供されます。この炊き出し等への衛生監視はどのようにされるのでしょうか。チェックリストのようなものがあるのでしょうか。

以上